令和２年８月３日

別添１

令和２年度　特別の教育課程の実施状況等について

|  |  |
| --- | --- |
| 東京　都・道・府・県 |  |
| 学　校　名 | 管理機関名 | 設置者の別 |
| 武蔵村山市立第二小学校 | 武蔵村山市教育委員会 | 国・公・私 |

１．特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 学　校　名 | 自己評価結果の公表 | 学校関係者評価結果の公表 |
| 武蔵村山市立第二小学校 | 〇 | 〇 |

　　※結果公表に関する情報について、ウェブ上で公開している場合は公開しているウェブページのURLを記入すること。ウェブ以外で公開している場合は、公開している情報を閲覧できる場所・方法等を適宜記入すること。

　　※必要に応じて行を追加すること。

２．特別の教育課程の内容

（１）特別の教育課程の概要

　　　小学校３～６年生で行う「エキスパート・タイム」において、専門的な外部講師を

招へいし、担当教員とともに、児童が自らの興味・関心に基づいた学習活動（運動、

音楽、美術、自然科学等）を展開していく。児童が自ら取り組みたい学習活動を選択

し、その学習活動に責任をもち、外部講師と関わりながら自分に身に付けたい技能や

知識を習得する中で、主体的に課題を解決していく能力の育成を図る。さらに、明確

な目的意識をもって学習活動に取り組むこと、選択・決定すること、他者とコミュニ

ケーションをとりながら課題解決を図ることといった一連の学習の流れにより、キャ

リア教育としての基礎的・汎用的能力を育成し、自ら学びに向かう力を育み、自らの

将来に向けて希望あふれる夢を描き、美しい志をもつことのできるようにしていく。

なお、児童自ら学習活動を選択・決定し、課題解決を図り、自己実現していくため

の評価を十分に行っていく。

（２）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

　　　本校の学区域は古くからある４地区から成り立ち、祖父母と同居する中、

地元意識が高く、私立中学校等への進学率は高くない。保護者は学校やＰＴ

Ａの行事には協力的である反面、教育活動については傍観者的な面も見られ

る。「エキスパート・タイム」の実施おいて、少しずつではあるが児童の自尊

感情を高めることができ、保護者や地域の関心も高まってきた。

こうしたことを踏まえ、学校と家庭・地域が連携し、個に備わっている多様

な可能性やよさを引き出し、自主・自律の精神を養う機会や場を設けるとと

もに、児童一人一人が生きる力を身に付け、自信をもち、自らの力で生き抜

くことのできる、自立した社会人へ成長していくための自己有用感を育む

「エキスパート・タイム」の学習活動を展開していくことは、本校にとって、

とても重要である。

（３）特例の適用開始日

　　　平成２７年４月１日

（４）取組の期間

　　　平成２７年４月１日～令和３年３月３１日

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

　　　・計画通り実施できている

　　　・一部、計画通り実施できていない

　　　・ほとんど計画通り実施できていない

（２）実施状況に関する特記事項

　　※（１）で「一部、計画通り実施できていない」又は「ほとんど計画通り実施できていない」を選択した場合は、必ず記載する。

　　　〇新型コロナウイルス感染症感染防止のため

（３）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

　　　・実施している

　　　・実施していない

＜特記事項＞

　　　〇９月より実施予定である。

４． 実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校の教育目標「責任感をもち、自ら進んで、積極的に、ねばり強く物事に取り組める子供を育成する」に基づき、「エキスパート・タイム」にて、自分の取り組みたい学習活動を自ら選択し、外部講師の助言指導を受けながら、技能や知識を身に付けることで、自己実現を図ることができるようになってきた。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

　　　運動、音楽、美術、自然、家庭生活等、各学年の教科や特別活動、課外活動クラブ

と関連した児童の身近に存在する学習講座を準備したことで、様々な学習活動の中で

児童が身に付けてきた技能や知識が発揮することができた。教科、特別活動等の補充

及び発展的な学習と位置付けることができた。

　　　また、小学校段階で実施した野球やサッカー、卓球、ダンス、コーラス、書道、英

会話等の学習活動を基礎として、中学校段階では、それを更に深めたり、広めたりす

る学習活動として発展できるよう、小学校と中学校の連携を図っていく。

５．課題の改善のための取組の方向性

　　課題は、「エキスパート・タイム」の講師を教育ボランティアでお願いすることである。

様々な講座を開設することによって、更なる教育的効果を期待できると考える。